

ちよつと

グーテン

な

国分寺

人口：127,769人

面積：11.46平方km

※令和4年2月現在



国分寺市

首都近郊にあって武蔵野の面影を残す住宅都市であり
水と緑に彩られた文化都市

深掘りすると、見えるもの。

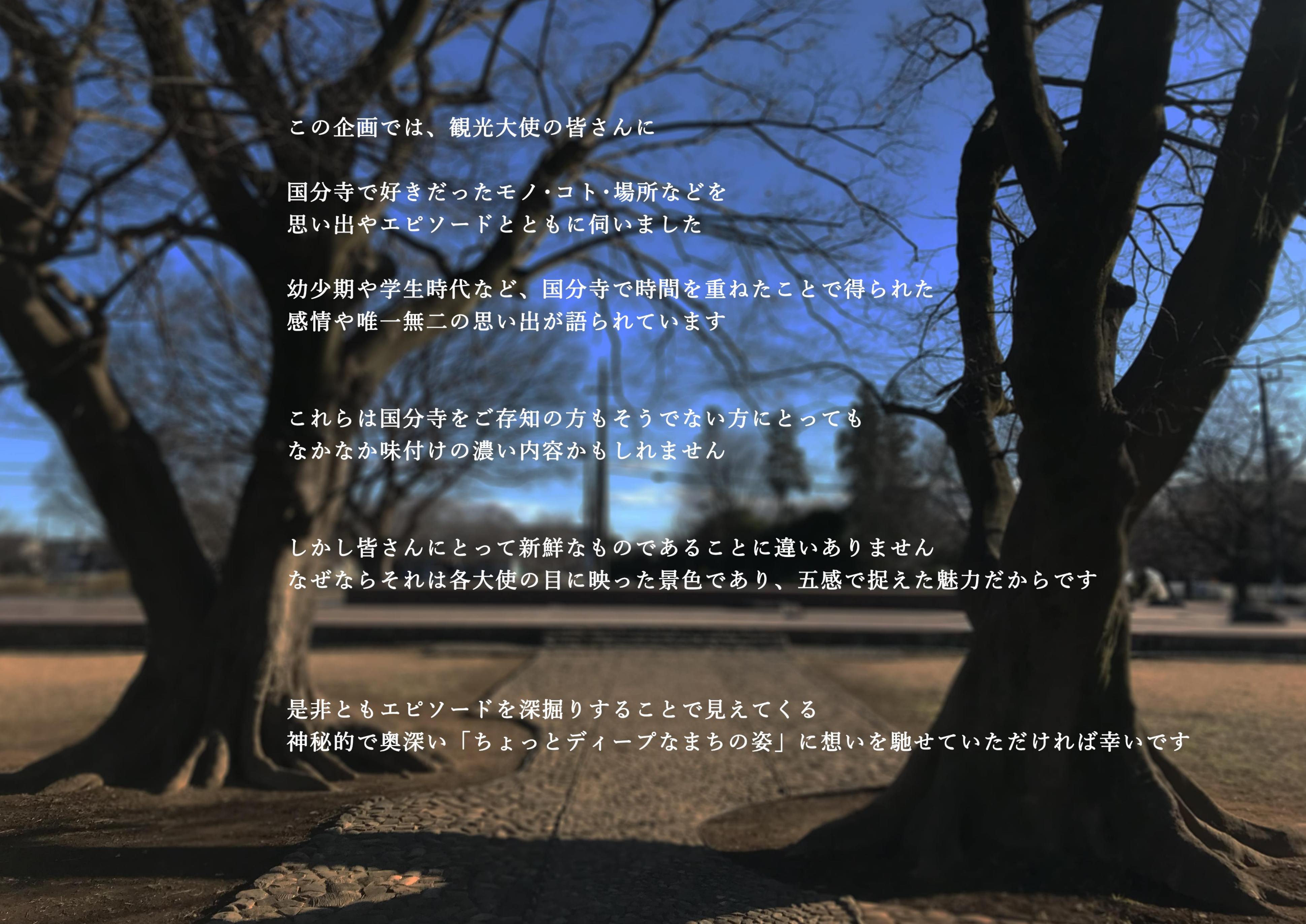
国分寺市の魅力は何でしょう
もちろん、市としてPRしている魅力はいくつもあります

しかし、本当にそれだけでしょうか

このまちで生まれた人
このまちで育った人
このまちに訪れた人

人が抱く感情は、人それぞれ異なります
ましてや同じ人でも時が変われば気持ちも変わります

まちの見え方もこれと同じで、まちを訪れたタイミングや一緒に巡った人
季節や気候など、様々な条件で変化します



この企画では、観光大使の皆さんに

国分寺で好きだったモノ・コト・場所などを
思い出やエピソードとともに伺いました

幼少期や学生時代など、国分寺で時間を重ねたことで得られた
感情や唯一無二の思い出が語られています

これらは国分寺をご存知の方もそうでない方にとっても
なかなか味付けの濃い内容かもしれません

しかし皆さんにとって新鮮なものであることに違いありません
なぜならそれは各大使の目に映った景色であり、五感で捉えた魅力だからです

是非ともエピソードを深掘りすることで見えてくる
神秘的で奥深い「ちょっとディープなまちの姿」に想いを馳せていただければ幸いです

想像を大切に

各エピソードでは登場する場所や風景の写真はほとんど載せていません。

文章から膨らむ想像をたよりに
それぞれの記憶や感情の中を自由に散歩してみてください。

EPISODE





土屋 礼央

Reo Tsuchiya

国分寺市出身のアーティスト・タレント

2001年にRAG FAIRのメンバーとして、サングラスと白いファーを巻いたスタイルでデビュー。紅白歌合戦への出演、オリコンシングル1・2位独占、ゴールデンアロー新人賞受賞などアカペラブームの立役者となる。

現在はRAG FAIRやソロプロジェクトTTREとしてアーティスト活動をする一方、多数のテレビ・ラジオ番組に出演し、雑誌の連載も行うなどマルチに活躍中。

最高の遊び場

土屋 礼央



そこは国分寺市の 最北端の地域

北町公園という長閑な公園があります。場所は国分寺市の最北端、すぐそこには玉川上水が流れる小平市との境界線の北町にある公園です。僕はこの公園の近くで少年時代を過ごしました。

現在の北町公園は3900平方メートルほどの広さがあり、ゆるやかな小さな山があつて、そこから遊具ターザンロープで遊べたり、子どもがロッククライミング体験が出来る遊具もあつたりで地元でみんなが集まる公園って感じ。

そこにはバスが通っていてぶんバス北町ルートで北町公園停留所、国立駅北口からは立川バスで東京創価小学校循環の東京創価小学校停留所から歩いてすぐの所にあります。是非遊びに行ってくださいね。

疑問しか残らない バス停

そんな東京創価小学校循環のバスは2015年以前は北町公園行きという名称のバスでした。バスの終点になる様な公園なので、さぞ立派な公園感を醸し出しています。

が、僕の少年時代の北町公園停留所は、今の素敵な公園の面影もなくバスがただUターンするだけのアスファルトの広場。どこが公園なの？と疑問しか残らないバス停。

実際は隣に市民プールがあつて、その入り口に申し訳ない程度の公園がある。それが北町公園。しかもプールの入り口は停留所の反対側にあり、北町公園はバス停からは全く見えない。

そんなちょっと残念なバス停「北町公園」（今は市民プールが取り壊され、その部分に素敵な北町公園があります）なのですが、このバスがUターンするだけの正方形の場所が土屋少年には最高の遊び場でした。

絶好の●●●

正しい事を言えばそこは私有地なので、遊んではいけない場所だったと大人になった今ならわかりますが、このバス停には、バスが1時間に1本しか来ません。その時間以外は誰もいません。イコール子ども最高の遊び放題の空き地。

この正方形の空き地（そう呼ばせてください）の周りは市民プールの高い壁、砂利の空き地、フェンス越しの畑、一軒の民家で四方が囲まれています。想像してください。この場所は絶好の野球場なのです。

市民プールと砂利の空き地側の角をホームベースにすると、レフト方向にフェンスがあり、その先は畑。フェンスを超えたらホームラン。ライト方向は、バスの入り口と一軒家。この一軒家に入ってもホームラン。ちよつとしたメジャーリーグの野球場と同じフォルム!!!!

想像力をかき立て 全力で楽しむ

そこで双子の中川君兄弟、もしくはイトチャ。僕は友達と1対1、2対2でゴムボールとカラーバットで野球を続けました。最高の時間でした。1時間に1回バスがやってきて停車している間だけは、休憩タイム。運転士さんと会話とかもしていました。（注意された事は一回もなかった気がするな…）



ボールが市民プールに入ってしまったたり、民家に入ってしまった事は沢山ありました。たまに民家のお父様には怒られていた気がします。（あの時は本当にすみませんでした…）

ちなみにこの友達との野球は1対1なので、守備はいません。ピッチャーが投げて守備も一人。投手がボールを取ってファースト方向に投げる。バーチャルの一塁手がいるので、ランナーよりもちよつと遅れてボールが1塁に届いても、「一塁手が手を伸ばしているからアウト!」と宣言で、それはアウト。当時はライオンズが黄金時代でしたから、選手になりきって、いないポジションは想像力をかき立てて、1対1の野球を全力で楽しんでいたなあ。

味わい深い探訪に

今その場所は、住宅地になっています。野球場っぽさはこれっぽっちも感じません。「東京創価小学校」「北町公園」のバス停と北町公園の間に存在します。バス停から現在の北町公園は徒歩2〜3分。北町公園に遊びに行く際には、その住宅地を眺めながら、ここで無邪気に野球を楽しんでいた少年がいたんだなあと思っただけだと、また味わい深い北町公園探訪になるかも知れません。

ではでは現在、野球関連のお仕事をいただいている土屋礼央でした。

EPISODE 2



木田 優夫

Masao Kida

国分寺市出身の元プロ野球選手

1986年にドラフト1位でプロ入り後、メジャーリーグで活躍。その後も日本のプロ野球チームで活躍し、2014年に引退を表明。引退後、2015年から北海道日本ハムファイターズのゼネラルマネージャ補佐に就任。

2017年10月に行われたドラフト会議では、日ハム球団のくじびき役を務め、清宮幸太郎（早稲田実業学校）を左手で引き当てたことにより話題となる。2022年2月現在、北海道日本ハムファイターズでファーム監督を務める。



投手人生

始まりの場所

木田 優夫

野球との出会い

来季から北海道日本ハムファイトーズでファーム監督を務める事になり、引き続き野球に携わって行く事になりましたが、そもそも、私が野球に出会ったのは国分寺市に住んでいる時でした。

高校球児だった父と、その父の影響で野球を始めていた3歳上の兄の影響で、よちよち歩きの頃からボールで遊んでいた私は、第二小学校に入る頃にはキャッチボールを始めていて、兄が入団していたスネークスと言うチームが3年生から入団が許されていたので、3年生になるとすぐに入りました。



当時、スネークスの練習は主に二小で行われていたので、二小の校庭にはたくさんの思い出がありますが、特に覚えているのが、スネークスを指導されていた秋山監督から「お前は背が高いからピッチャーをやってみろ」と言われて、始めてピッチング練習をした時の事です。

あの時が、私が投手としての人生を歩み始めた瞬間だったと考えると、私の投手人生は二小の校庭から始まった事になります。

絵を描くきっかけ

また、私は、第十小学校が出来た時に、二小から十小に移ったのですが、それからは、放課後は毎日のように十小の校庭で野球をしていました。その頃の十小には、スネークスの他に、ジュニアキングやバッファローズの選手もいて、みんな一緒にプレイしていた事が楽しい思い出として残っています。



そんな野球好きの小学生だった私は、晴れていれば外で野球をしていましたが、雨が降った日は野球が出来ないので、家で漫画を読んでいる事が多かったと思います。今でも新聞などでイラストを描いたりしていますが、もともとは漫画が好きで、この頃に、好きな漫画を真似て描いたりしていたことがきっかけで絵を描くようになりました。漫画は色々な作品を読みました。が、やはり野球漫画が多かったと思います。



私にとっての 特別なグラウンド

あのイチロー選手も影響を受けたという「キャプテン」も読んで私も影響を受けましたが、その「キャプテン」と同じくらい好きで影響を受けたのが水島新司先生の作品でした。

「ドカベン」や「一球さん」「球道くん」など、本当に大好きな作品ばかりですが、水島先生の代表作でもある「野球狂の詩」にもはまりました。

「野球狂の詩」に出てくる「東京メッツ」というプロ野球チームの本拠地が「国分寺球場」だったことも作品にはまった要因の1つだったので、勿論、

「国分寺球場」は実在しません。ただ、いつもは校庭ばかりで野球をしていた私にとって、当時、少年野球の大会に使われていて、今も「戸倉野球場」として使われているグラウンドは、特別なグラウンドで、私にとっての「国分寺球場」でした。

「戸倉野球場」で試合をした時の写真は、今も実家に残っています。その大会では、ジュニアキングに負けて準優勝だったので、試合終了直後は泣いていたのを覚えています。表彰式直後の集合写真では、みんなと一緒に笑顔で写っています。



国分寺からたくさんの 野球選手を

野球をしていると、苦しい事、悔しい事も多いのですが、楽しい事や嬉しい事もたくさんあります。野球は私の人生を楽しいものにしてくれました。

国分寺市は「歴史と文化」「科学」「農業」「緑と水」を4大特徴としていますが、その次か、そのまた次の特徴になるくらいに、国分寺の皆さんに野球を楽しんで頂いて、ファイトーズの仲間でもある斎藤佑樹氏や清宮幸太郎選手にとっても思い出の街である国分寺から、たくさんさんの野球選手が育ってくれたら楽しくなるのではないかなと思っています。







福間 洸太郎

Kotaro Fukuma

国分寺市出身の**ピアニスト**

市立第四小学校、市立第四中学校出身。
都立武蔵高校卒業後、ヨーロッパへ留
学し、パリ国立高等音楽院、ベルリン
芸術大学、同大学院、コモ湖国際ピア
ノアカデミーにて学ぶ。

2003年に20歳で日本人初クリーヴラ
ンド国際コンクール優勝、ショパン賞
受賞。
現在、世界5大陸を舞台に活動中。

思い出が蘇るまち

福岡 洸太朗



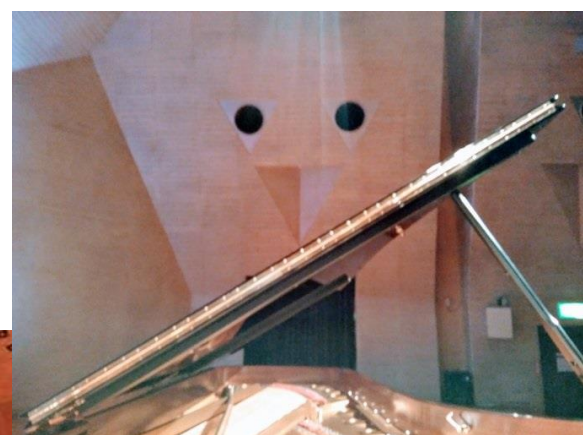
原点で迎える 心情の変化

私はこれまで数多くのコンサートホールで演奏してきましたが、国分寺市立いずみホールがダントツで多く演奏してきました。Aホールは恐らく20回以上、Bホールも合わせれば30回以上だと思います。私が小学1年生の時に設立され、翌年からピアノの発表会でも弾かせていただきました。柿落として清水和音さんがリサイタルされ、「展覧会の絵」を弾いていたのを覚えています。奇遇にも、同曲を2004年日本のデビューリサイタルで私も演奏し、その後清水さんと同じエージェントに入るご縁となりました。

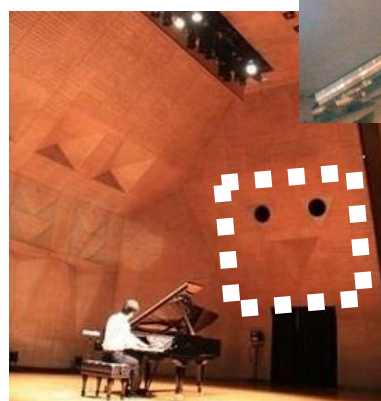
いずみホールの特徴は幾つかありますが、まずは独特の香りが漂っているように思います。使用されている木なのか分かりませんが、昔はその香りをかぐと条件反射のように緊張していましたが、今では懐かしさに変わっています。

目線に注意！

楽屋はスライド式仕切りで二部屋になり、片方には畳があるのですが、よく本番前に座布団を敷いて横になっています。一番私が面白いと思うのは、ステージ側面にある空気口です。数年前のリサイタルでショパンの『雨だれ』を弾いている時、暗い部分でふと顔を上げたら空気口の3つの穴が目に入り、まるで口を大きく開けて笑っている顔のように見え、プツと吹き出しそうになりました！以来、いずみホールで弾く際は顔を上げないで演奏しています（笑）。



▲演奏中に見える景色



◀いずみホールのステージ
(点線内に注目)



▲いずみホール楽屋

思い出のホールは 他にも

私が通った第四小学校は改築され、場所も少し移動しましたが、新校舎のひだまりホールにあるピアノは、私が柿落して初めて演奏させていただきました。その後、何度か練習にも使わせていただきました。2010年にはバリトン声楽家のヴィタリさんとチャリティコンサートをしました。

昔も今も この場所で

私の好きな国分寺のスポットは、やはり緑と歴史に溢れる武蔵国分寺跡の周辺ですね。お鷹の道を下って行き、真姿の池、湧水園、おたカフェ、そして国分寺跡という流れは、最高のデートスポットかなと思います。

ちなみに私は中学生の頃、第四中学校野球部に所属していて、当時は砂利広場だった国分寺跡（「ジャリ公園」と呼んでました）で、筋トレや走り込みなどのトレーニングをしたものです。2019年4月、最後の「万葉花まつり」で金堂跡の上で野外演奏させていただいたことも大変思い出深いです。



▲ 出演した万葉花まつりの様子

たまには寄り道を

西国分寺駅からほど近い姿見の池も素敵です。かつて恋ヶ窪の遊女達が自らの姿を映して見ていた場所で、傾城・夙妻太夫が武将・畠山重忠を慕って身を投げた神秘的な池ですが、春に行くと、種々の花が咲き、非常に癒されました。

子供の遊び場としては、黒鐘公園もオススメです。今は遊具や設備が若干変わっていると思いますが、長いローラー滑り台は今も健在のようですね。丘や坂もあるのでジョギングにも最適です。中学校の帰り、時間がある時はこの黒鐘公園に寄り道して伝鎌倉街道を抜けて、帰っていました。





荒川ケンタウロス

Arakawakentauros

国分寺市で結成された**5人組ロックバンド**

2009年に結成。メンバー5人中4人が市内にある東京経済大学の出身者で構成されており、市にゆかりの深いバンドである。

2015年にミニアルバム「玉子の王様」でメジャーデビュー。

ライブツアーやラジオ出演、国分寺市内を舞台にした動画企画（国分寺カバー）など多方面で活躍中。



五人五色の国分寺

荒川ケンタウロス

霧囲気のいい
散歩道

私のおすすめは黒鐘公園周辺です。子どもと遊びに来た際、魅力的なローラーの滑り台、高低差のあるつくり、広すぎず狭すぎず大人も楽しめる公園だと感じました。謎に広い金堂跡・武蔵国分尼寺跡周辺、開放感がすごい！少し歩くと伝鎌倉街道というんだか霧囲気の良い散歩道があつてワクワクした記憶があります。

後日、早朝に黒鐘公園あたりを散歩すると遊んでいたところの奥にも歩いて行ける場所が。歩き進めるとうっそうとした木々、木々、木々。自然に遮音された場所を歩くのがとても気持ちよかった！そしてそこで散歩をする人とすれ違ふと「おはようございます」のあいさつの応酬。ああ、これってば旅館に泊まった時のアレと似ててとてもラブ。国分寺、大好きな場所です。（土田）

幸せな時間は
街の中に

市内にはデイリープな空間に迷い込める飲食店があります。そうした場所は、学生時代に飲み会やデートでも訪れた思い出の地でもあり、もちろんバンドメンバーとの打ち上げでも使いました。美味しい酒やつまみを堪能して幸せな時間を過ごすことができます。

（尾越）

国分寺との縁が
続いている

今はなくなってしまったけれど、南口から10分ほどの3部屋しかないスタジオにこもってよく練習をしていた。当時は思いもよらなかったことだけれど、結成から10年の年、観光大使に選んでいただき、大学を卒業してからも国分寺との縁が続いている。

（二戸）

不安やドキドキも
味わえる

634展示室というアートギャラリー。色々なイベントが開催されており、その中で鳥好きとしては気になるトリハ展というイベントに遊びに行きました。

初めて訪れた時のこと。国分寺駅前からの道のりは、分かれ道でそっちに行くの?! という線路沿いの細い道を通っていきます。本当にあるのか?...?というちょっぴり不安やドキドキを味わいながら行けるスポットでもあります。

（鳩）



東京でこんな遊び場 ないのでは!?

私のおすすめはプレイステーションです。誰でも利用できる無料の遊び場です。手作り感満載で、秘密基地みたいな感じかもしれません。

泥まみれになったり、木で弓矢を作ったり、ただひたすら穴を掘って水を流したり・・・今の東京でこんな遊び方ができる場所はありません。プレイヤーという方が常にいて、物作りや昔ながらの遊び方を教えてくれて、また安全に遊べるように見えてくれています。元々は西元町にありましたが今は移転して東戸倉にあります。僕の思い出としてはここ5年くらいのものですが、移転前の最終日、大人も子供も泥まみれになって暗くなるまで惜しむように遊んでいた姿がとても印象的で泣けました。

そして移転後もやっぱりとても良い施設のままだ、場所は変わっても、これからも変わらず国分寺の子供たちの大切な居場所でいてくれるのです。うちの子供たちも楽しく利用させてもらっています。

行ったことのない方はもったいない！ぜひ利用してくださいませうと思うのです。（楠本）



BONUS





もっと早く知りたかった！

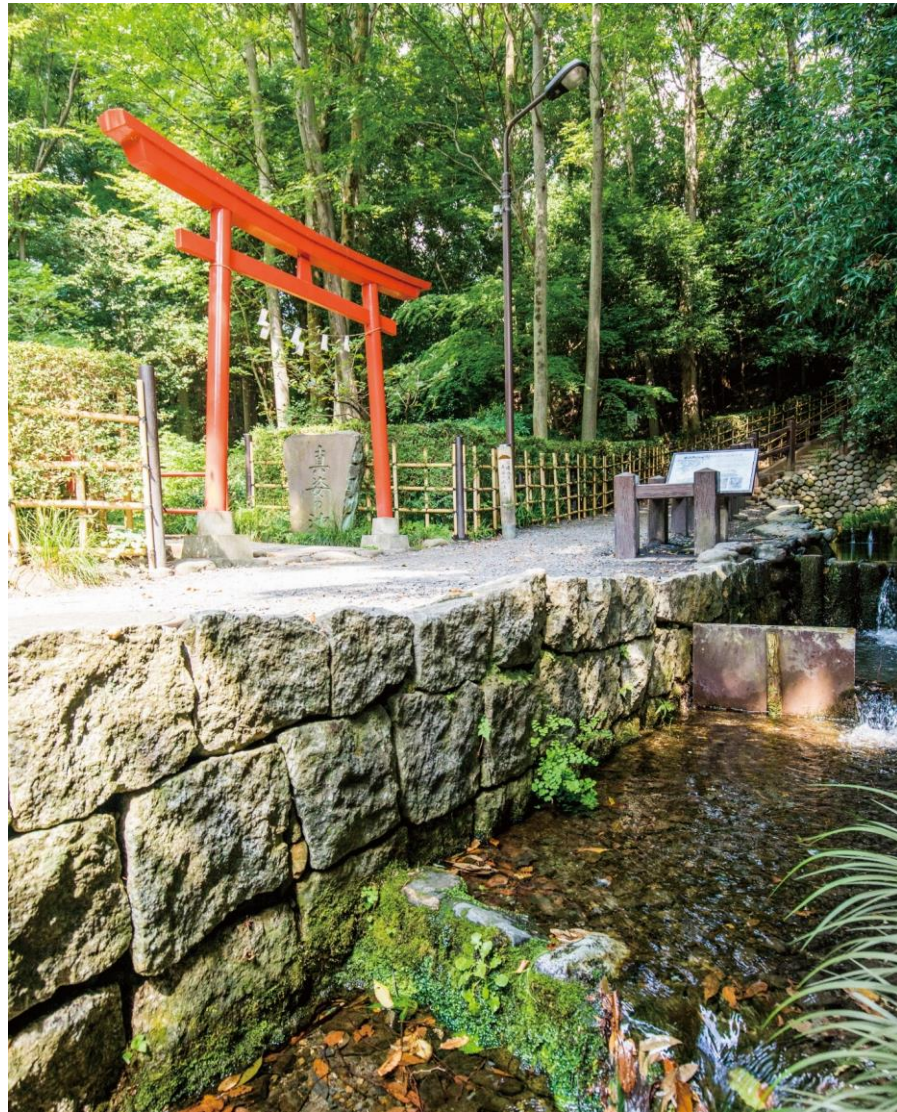
国分寺にある●●な場所

緑と水の あふれるまち

市内各地には、緑と水が豊富な自然資源が多くあり、生活の中でそのうるおいを感じることができます。先人たちが大切に残してくれた素晴らしい環境が国分寺市にはあります。

真姿の池をはじめとする国分寺崖線下の湧水群は、「お鷹の道」と合わせた環境の良さを評価され、「環境省選定名水百選」の一つとして選ばれています。また、東京都の指定名勝・名湧水57選にも選定されています。

お鷹の道は、市内の村々が尾張徳川家の御鷹場に指定されていたことにちなんで、湧水が野川に注ぐ清流沿いの小径を「お鷹の道」と名付けました。約350メートルの遊歩道は四季折々の自然が楽しめる散策路として人気があり、国分寺を代表する名所として親しまれています。



▲お鷹の道・真姿の池湧水群

真姿の池 と 姿見の池 は **別モノ**

真姿の池にまつわる伝承

嘉祥元（848）年、絶世の美女であった玉造小町が重い病気に苦しみ、国分寺の薬師如来に祈ると、一人の童子が現れて池の水で身を清めるように言いました。

小町が身体を洗うと、たちまち病気が治癒し、元の美しい姿に戻ったという伝承から、この池を「真姿の池」と呼ぶようになりました。



◀ 姿見の池

姿見の池というものもある

鎌倉時代、恋ヶ窪は宿場町として栄え、遊女たちが池で朝晩自らの姿を映していたことから「姿見の池」と呼ばれるようになったと伝えられています。

夙妻太夫（あさづまだゆう）が畠山重忠を慕って身を投げた池と伝えられ、大岡昇平著「武蔵野夫人」の舞台でもあります。野鳥が観察できるスポットとしても人気です。

東京の名湧水57選にも選ばれています。



どんなドラマがあったのか!?

このまちが生まれた理由





歴史と文化のあるまち

734～740年、飢餓や大地震、疫病の流行、政治の混乱などにより国は未曾有の危機にさらされ、人々は苦しんでいました。

天平13（741）年、聖武天皇は仏教の力で国を安定させるため、諸国に国分寺（僧寺：金光明四天王護国之寺と尼寺：法華滅罪之寺）を建立するように「国分寺建立の詔」を發布しました。建立にあたり、武蔵国（現在の東京都、埼玉県、神奈川県の一部）では、武蔵国府（現在の府中市）に近く都へ通じる東山道武蔵路があり、湧水も豊富で四神相応の地※にあることから現在の国分寺市域が選ばれました。

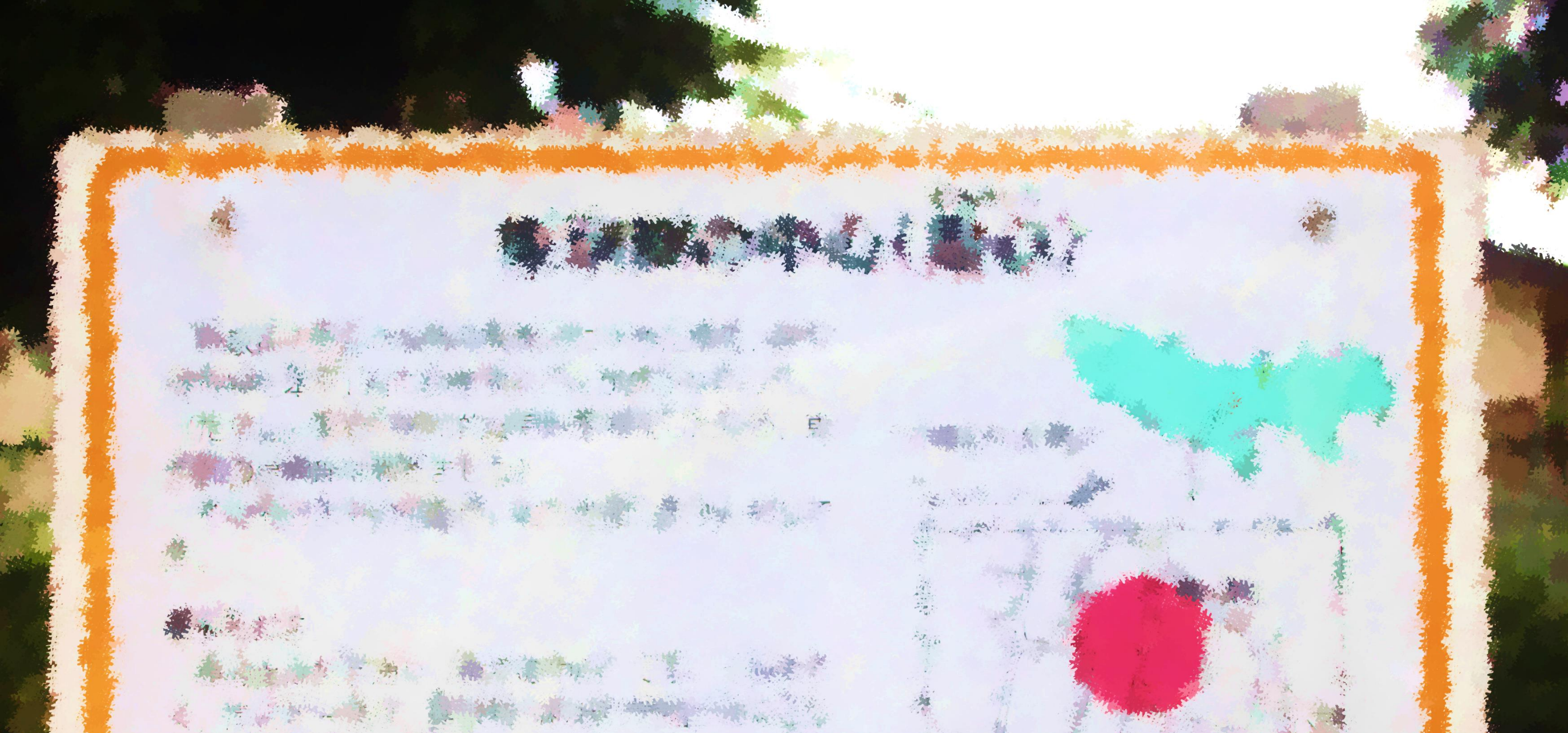
こうして諸国約60か所に国分寺が建立されました。

その後、国分寺は宗教・文化の中心として繁栄し、周辺には寺の維持管理を担う人々が住みました。現在、この地は国指定史跡として大切に保存されています。

ちなみに、自治体の名称となっているのはここ「国分寺市」だけです。

※地理的環境が四神の存在にふさわしいすぐれた所。
東に青竜＝川（野川）、西に白虎＝道（東山道武蔵路）、
南に朱雀＝低湿地（立川段丘面の平地）、北に玄武＝丘陵（国分寺崖線）が備わる土地。



A stylized, painterly illustration of a landscape. The scene is framed by a thick, textured orange border. Inside, a light blue sky is filled with soft, colorful brushstrokes in shades of purple, blue, and green. A large, vibrant red sun is positioned in the lower right quadrant. A green bird is depicted in flight in the upper right. The overall style is reminiscent of a watercolor or pastel painting.

意外と知られていない!?

国分寺市は東京の●●

先に答えを言ってしまいます

国分寺市は東京の「重心」です

東京の**重心**・・・!?

これは一体どういうことでしょうか

まず、**東京都※の地図**を思い浮かべてください

※東京都島しょ部を除く

次にその地図を厚さが同じ**一枚の板**とします

・・・ここは皆さんの想像力にお任せします

そして、その板を指一本でバランスを取りながら
支えてみてください



土屋さんにお手本を示してもらいました

そうです！

その重さのバランスが取れる点が重心であり、
国分寺市内の**富士本3丁目**の位置にあたるのです

いかがでしょうか

そろそろ指が疲れてしまいますので、板は下に置いて結構です

この重心は財団法人日本数学検定協会によって算出され、
富士本3丁目に所在する**国分寺市立富士本90度公園**には
このことを示す看板があります



国分寺市は都会の喧騒を忘れさせる**安らぎ**と首都近郊だからこそ味わうこと
のできる様々な**利便性**が共存する「**バランス**」の**とれたまち**なのです

エピソードに登場した場所はどこにある??

大使の皆さんのエピソードに登場した場所は
まち歩きマップ **東京のおへそ こくぶんじ** に掲載されています。

一部マニアックで掲載のない場所もありますが、
そんな時はお気軽に市役所でお尋ねください。

もちろん、ヒントなしに実際に歩いて探す方も大歓迎！！

国分寺市は比較的コンパクトなまちです。
自由に休憩を挟みながら、思い思いの国分寺探訪を
楽しんでいただければ、嬉しい限りです。

市内の公共施設等で
入手可能です

東京のおへそ
Guidebook of Kokubunji city

こくぶんじ



ご覧いただきありがとうございました



あなたのお越しを心よりお待ちしております





An aerial photograph showing a circular archaeological site, likely the Kofun of Kofu, surrounded by a dense field of rice paddy fields. The site is a circular earthen structure with a central mound and concentric rings of earthworks. The surrounding fields are a mix of green and brown, indicating different stages of rice growth or harvest.

国分寺市観光大使 特別企画2022

ちょっとディープな国分寺

■原稿・写真提供

国分寺市観光大使の皆様

■企画・制作

国分寺市 政策部

市政戦略室 まちの魅力企画担当